

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 陽南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 67人

② 算数 67人

③ 理科 67人

5 留意事項

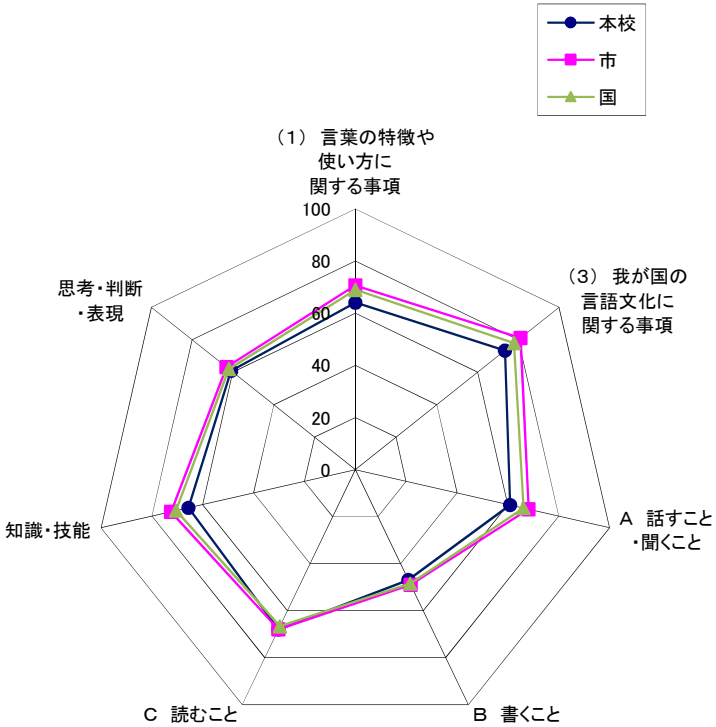
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立陽南小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	64.1	70.7	69.0
	(2) 情報の扱い方に関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	73.4	81.1	77.9
	A 話すこと・聞くこと	60.9	68.2	66.2
	B 書くこと	46.9	48.9	48.5
	C 読むこと	68.0	67.9	66.6
観点	知識・技能	65.6	72.5	70.5
	思考・判断・表現	60.9	63.2	62.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

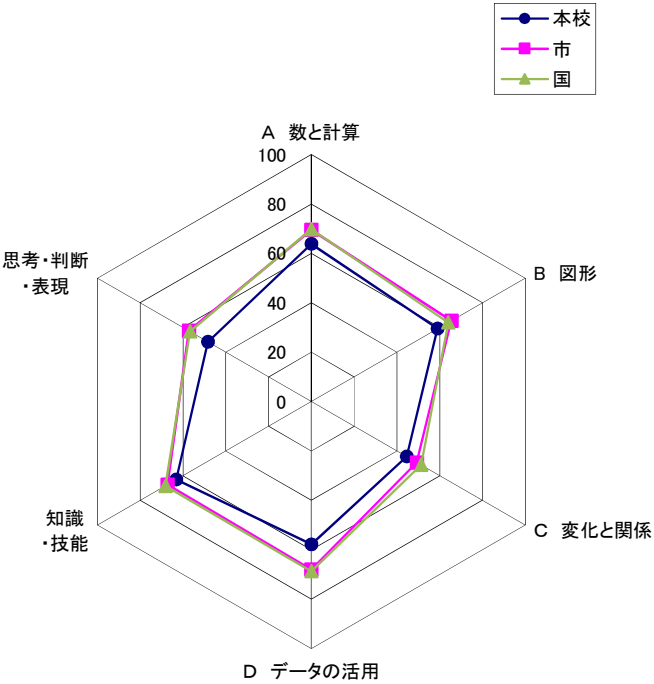
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は64.1%で全国の平均より低い。 ●話し言葉と書き言葉との違いを理解することや言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉えることに課題が見られる。 ●漢字を文の中で正しく使うことに課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・話し合い活動において、言葉の使い方や相手の意図をくみ取って話すことが苦手な児童が多いので、日頃から言語環境を整え、相手の意図や考えを確認するような場の設定を授業に取り入れていく。 ・朝の学習や家庭学習等で繰り返し漢字練習を行う。また、漢字を文章中で正しく使えるよう、例文と一緒に覚えさせたり、漢字の成り立ちや意味を確認したりして定着を図る。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は73.4%で全国の平均より低い。 ●漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くことに課題が見られる。	・書写の時間を要に「行の中心」や「文字の大きさ」、「文字と文字の間」に気を付けて書く指導を行い、普段から整った文字を書くよう助言する。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は60.9%で全国の平均より低い。 ●互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめることに課題が見られる。	・自分の立場や考えを明確にしてから話し合いを行う場面を設定し、自分の考えを明確に伝えたり、相手との共通点や相違点を考えながら聞いたりする活動を増やしていく。国語の授業に限らず、教科横断的に取り組んでいく。また、一人一台端末を活用して、自分の意見を投稿させる場の設定も併せてしていきたい。
B 書くこと	平均正答率は46.9%で全国の平均より低い。 ○文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けことがよくできている。文章を書くことに抵抗をなくすため、どの教科でも振り返りをしっかりと書かせてきた成果と考えられる。 ●文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることに課題が見られる。	・文章を書くことに対する抵抗感を無くしていけるよう、国語の授業に限らず、文章を書いたりまとめたりする活動を多くの教育活動の中で取り入れていく。 ・ペア学習やグループ学習を通して、友達の書き方のよさを自分の文章表現に生かすなどして書くことができるよう支援をする。また、書いた文章を読み直して文章を整えられるようにしていく。
C 読むこと	平均正答率は68.0%で全国の平均よりやや高い。 ○登場人物の相互関係について、描写を基に捉えたり、人物像や物語の全体像を具体的に想像したりすることがよくできている。学校全体で読書活動を推進してきたことにより、読む力の向上につながったものと思われる。 ●表現の効果を考えることに課題が見られる。	・物語文や説明文を読み取る活動の中で、情景描写や文章の要点となるキーワードを押さえるなどして、表現の工夫を読み取れるようにする。 ・朝の読書の時間や図書館利用の時間を活用して、読書活動をより一層推進していき、叙述を基に内容を捉えられるようにしていく。

宇都宮市立陽南小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	63.8	69.5	69.8
	B 図形	59.0	65.4	64.0
	C 測定			
	C 変化と関係	44.5	49.3	51.3
	D データの活用	57.8	68.0	68.7
観点	知識・技能	63.2	67.3	68.2
	思考・判断・表現	48.4	57.3	56.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

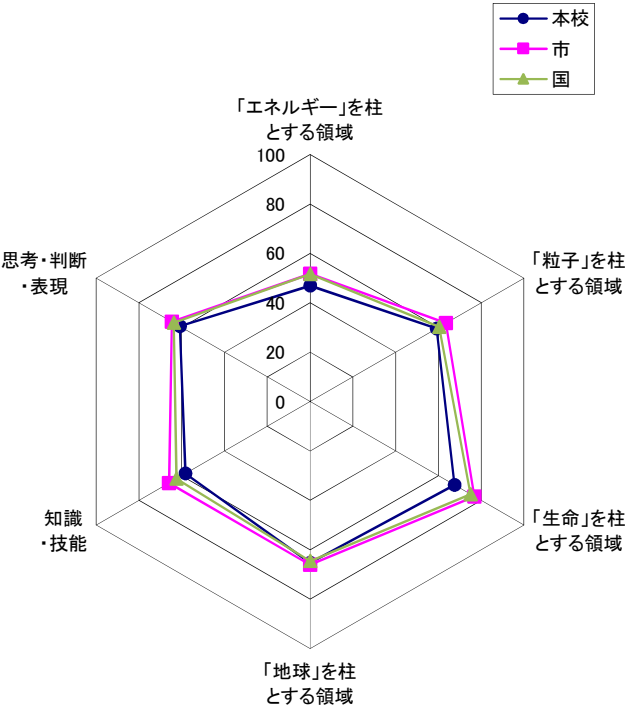
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は63.8%で、全国の平均より低い。 ○被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすることはよくできている。朝の学習や家庭学習で反復練習をしてきた成果だと思われる。 ●示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察することに課題が見られる。	・問題文の内容を正確に捉えられるよう繰り返し指導を行うとともに、今までの知識から工夫して答えを導き出す活動を多く取り入れ、思考力や表現力を伸ばしていく。
B 図形	平均正答率は59%で、全国の平均より低い。 ●外角と内角の関係など、図形の性質の理解において課題が見られる。	・一人一台端末を用いて実際にプログラミングを行い、視覚的に捉えながら、図形の性質や定義についての理解を深めていく。 ・さまざまな図形の作図を繰り返し行うことで、角度や辺の長さなど、図形の構成要素についての理解に努める。 ・習熟度別学習で、児童一人一人の実態に応じた指導支援を充実させていく。
C 変化と関係	平均正答率は44.5%で、全国の平均より低い。 ●二つの数量の関係を割合で表現することに課題が見られる。 ●未知の数量の求め方について、比例の関係であることに着目して自分の言葉で説明することに課題が見られる。	・比較量と基準量の意味を復習するとともに、なぜそのような考えるかなど、求め方や式の意味を数直線を使って説明する学習活動を意図的に設定し、思考力の向上を目指す。
D データの活用	平均正答率は57.8%で、全国の平均より低い。 ●表やグラフから得たデータを適切に選択し、必要な情報を読み取ることに課題が見られる。	・社会や理科など、統計資料や実験データを扱う単元との関連も図りながら、教科横断的な指導を行い、グラフを読み取る力や活用する力を育む。 ・表やグラフから読み取れることを伝え合う活動を取り入れることで、多面的に資料を読み取る力の向上を目指す。

宇都宮市立陽南小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	46.9	51.7	51.6
	「粒子」を柱とする領域	59.1	63.5	60.4
	「生命」を柱とする領域	67.5	76.8	75.0
	「地球」を柱とする領域	65.3	66.1	64.6
観点	知識・技能	58.3	65.9	62.5
	思考・判断・表現	60.9	64.6	63.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は46.9%で、全国の平均より低い。 ○自分で発想した実験の方法と、追加された情報を基に、実験の方法を検討して、改善し、自分の考えをもつことはよくできている。学習問題に対する予想を考えたり、結果から考えられることをまとめたりしてきた成果と考えられる。 ●問題に対するまとめを導きだすことができるように、実験の過程や得られた結果を適切に記録することに課題が見られる。	・今後も、実験結果から考察する活動を充実させ、自分の言葉でノートに書いたり、それを友達と伝え合ったりしながら、適切な表現で記述する技能を高めていく。 ・国語や算数など、表やグラフを用いた説明文の読み取りや統計資料を扱う単元との関連も図りながら、教科横断的な指導を行い、出題の意図を正確に読み取る力や活用する力を育む。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は59.1%で、全国の平均よりやや低い。 ○●実験器具の名称など、基礎的な知識は身に付いているが、その使用方法や正しい扱い方に対する知識の定着に課題が見られる。 ●自分で発想した予想と、実験の結果を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもつことに課題が見られる。	・実験器具を正しく扱ったり、映像資料を活用して繰り返し確認したりしながら、基礎知識の習得に努めるとともに、各単元で得た知識の確認をする時間を設け、定着を図っていく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は67.5%で、全国の平均より低い。 ●自分で行った観察で収集した情報と追加された情報を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもつことに課題が見られる。	・生き物の体のつくりや育ち方に関する理解の定着が十分ではないので、一人一台端末のドリル等を活用して朝の学習などの時間に復習する時間を確保し、理解の定着を図る。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は65.3%で、全国の平均よりやや高い。 ○仮説が立証できた場合に得られる結果を見通して、グラフを適切に選ぶことができている。 ●水は水蒸気になって空気中に含まれていることの理解に課題が見られる。	・単元によって基礎、基本の定着に差が見られるので、どの単元の終末で得た知識の確認をする時間を設けるなど、復習する時間を確保する。 ・今後とも、学習内容を生活に結びつけて考えさせたり、体験的な学習を充実させたりして、理解の定着を図っていく。

宇都宮市立陽南小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○「自分には、よいところがあると思いますか」の問いに対する肯定割合は85.1%で、全国の平均と比べて5.8ポイント高く、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」の問いに対する肯定割合は94.0%で、全国の平均と比べて6.9ポイント高い。教育相談等や日々の生活の中の自己肯定感が高まるような言葉掛けにより、認められていると感じている児童が多くなったのではないかとと思われる。今後も児童の気持ちに寄り添い、良いところを伸ばせるような環境を作り努めていきたい。

○「学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか。」の問いに対して「毎日」「週3回以上」と答えた児童の肯定割合は49.2%で、全国の平均と比べて5.3ポイント高く、「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。」の問いに対する肯定割合は97.0%で、全国の平均と比べて2.6ポイント高い。一人一台端末を活用できる場面では、様々なソフトを使って授業に組み込んできた成果の表れだと思われる。

●「学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか。」の問いに対して週3回以上と回答した児童の割合は13.5%と、全国の平均と比べて8.2ポイント低いので、自分の考えをまとめ、発表する場面での活用を増やせるような授業づくりに努めたい。

○「普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか。」の問いにおいて、2時間以上ゲームをしている児童の割合は38.8%で、全国の平均より11.4ポイント低い。常時指導や懇談会での啓発、出前授業等の効果があったと思われる。引き続き情報機器に関する指導を継続していく。

●言語活動の充実ということで学校全体で取り組んでいるが、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」の問いに対する肯定割合は73.1%で、全国の平均と比べて7.0ポイント低い。話合いの活動はよく行っているが、伝え合いに終始し、自分の考えを深めたり広げたりするまでに至っていないと言える。深まりのある話合い活動となるよう、問いを工夫したり、話合いの観点を与えたりして、活動を工夫していきたい。

●「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。」の問いに対する肯定割合は73.1%、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。」の問いに対する肯定割合は83.5%と、それぞれ全国の平均と比べて8.4ポイント、6.9ポイント低い。規則正しい生活を送れていない児童がやや多いことが分かる。遅刻して登校する児童も多いので、生活リズムを整えることの大切さや生活リズムが学習への取組に与える影響などについて指導を続けたい。

●「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」の問いに対する肯定割合は64.2%、「5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。」の問いに対する肯定割合は61.2%と、それぞれ全国の平均と比べて13.1ポイント、11.0ポイント低い。自分の考えを整理してまとめられるよう学習シートを工夫したり、一人一台端末を活用して学習のまとめをしったりしてき

宇都宮市立陽南小学校 (第6学年)
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
児童の自己表現力を高める言語活動の工夫	・各教科で目的に応じた「書く活動」を取り入れ、自分の考えを豊かに表現できるようにする。	国語の「文章に対する感想や考えを伝え合い、自分の文章のよいところを見つけ」て書くことがよくできていた。各教科で振り返り活動等を通して自己表現の場を設けた成果だと思われる。昨年度よりも、記述問題での無回答率も減った。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語において「書くこと」については、全国平均を上回ったが、質問紙の結果を見ると、「話合いを通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか」の問いの肯定割合が全国平均を下回っている。また、「自分の考えがうまく伝わるよう、発表できたか」の問いの肯定割合	・児童が進んで意見交流を行うための課題設定 ・考えを深めるための話合いの観点的設定 ・自分の考えをもち、工夫して自己表現する場の設定	・児童が進んで話し合いたいと思えるような話合いのテーマや問いの工夫を行う。 ・話合いの趣旨がずれていかに観点的の与え方を工夫し、話合いが深まるような児童同士のやり取りのポイントを示す。 ・少数人による意見交換により、自分の意見に根拠をもち、工夫して発表できるような場を設ける。